

【平成29年度 評価充実協議会】

第3部パネルディスカッション

「内部質保証を中心とした大学教育の在り方」

5

【事例発表】私立女子大学の行方と展望

十文字学園女子大学のビジョン「十文字2030」



内田 伸子

（十文字学園女子大学特任教授

十文字学園理事）

uchida.nobuko@ocha.ac.jp

建学の精神

創設者 十文字ことの詞

「身をきたへ 心 きたへて

世の中に たちて かひある

人と生きなむ」

【巢鴨キャンパス】

十文字中学・高校・大学 & 大学院サテライト

【新座キャンパス】

十文字学園女子大学・十文字学園女子大学附属幼稚園

十文字学園女子大学の改組と大規模化 短大廃止と「人間生活学部」の改組

学科名称	入学定員	編入学定員	収容定員	【取得可能な資格】
幼児教育学科	190名	5名	770名	【幼稚園教諭・保育士】
児童教育学科	90名	5名	370名	【小学校教員・幼稚園教諭】
人間発達心理学科	140名	5名	570名	【認定心理士・養護教諭】
人間福祉学科	100名	5名	410名	【社会福祉士・保育士】
健康栄養学科	80名	5名	330名	【管理栄養士・体育教師も】
食物栄養学科	120名	10名	500名	【管理栄養士】
文芸文化学科*	100名	5名	290名	
*短期大学部の改組による				
生活情報学科	100名	5名	410名	
メディアコミュニケーション学科	80名	5名	330名	

定員割れ!

★大規模化の失敗，学科名称と学士課程の整備に課題

「私立大学の戦略的経営を考える」
水戸英則氏(二松学舎理事長)の基調講演
日本高等教育機構10周年記念シンポジウムH27.2.5.

★「私立大学が教育改革に取り組むとき、学生の特徴をしっかりと踏まえないといけない」

- ①受験生は中学⇒高校からすぐに大学に進学する層が殆ど。
- ②偏差値教育により自分の能力の限界を自ら決めてしまい、**努力しない層が進学してくるようになった。**
- ③大学進学者の7割が**不本意入学**であること。

※したがって、受験偏差値が68以上の難関私立大学(早稲田・慶応・同志社・立命館)を除き、多くの私立大学ではかなり**教育に手がかかる時代**である。

★私立大学の教員の教育負担は10年前に比べて非常に大きくなった。

「大規模効果」の意味

1)私立大学の財政の悪化進展

①定員割れ大学は平成25年度232/576=40.3%。東北、四国地区の定員割れが目立つ。規模別では1学年定員800名を境として以下は定員充足率が低く、定員が多くなるに従い上昇の傾向がある。(参照:水戸氏ppt資料10頁の表)

②大規模大学と中小規模大学との格差拡大、大規模私大(8学部以上)はブランド力を背景に学生募集力が強い。地域間格差も拡大している。

③学生募集停止大学の増加(平成16年・同19年1大学、同22年5大学、同24年1大学。今後増加の兆候あり)

「大規模効果」が起こるとき

2) 定員数とブランド力とのタイアップで

- ・ 入学定員が800～1000以上の大規模大学は、10年前から定員確保。しかし、小規模大学は定員割れをしているという現実。
- ・ 「大規模効果」とは、単に大学入学定員が多ければよいのではなく以下の3つの条件が全部そろっているところでないとは定員確保は見込めない。

第1に、**立地条件**(例.表参道にある青山学院大学)

第2に、**宣伝力**の効果は絶大。偏差値の上昇を伴う。

(例. 日本大学は日航と提携しての宣伝、

大学名をゼッケンに駅伝に強い東洋大学や青学など)

第3に、**偏差値**の高い方に流れる(自分の能力に限界を感じてあきらめて大学進学するとは言っても、受験偏差値が少しでも高い大学に入りたいという願望が強い)

「改革疲れ」 法人化が影を落とす

朝日新聞「社説」2017.5.28より

国立大学の法人化（2004年）

文科省 「経営の自由度を高め時代の変化に対応できる大学への
脱皮を促す」

c.f.,「少子高齢化と財政難のなか、競争強化によって大学のぬるま湯を抜き、お金をかけずに 世界と渡り合える研究水準を維持したい」

★「**運営費交付金**」毎年1%削減・「**競争的研究資金**」を増やした。

①**単科教員養成大学や小規模大学**では運営費交付金と人件費が交差(2016年～2018年)⇔「**経営破綻**」

②**競争的研究資金獲得に有利なはずの大規模大学も！**

主体的に議論し、自ら描いた将来像に向けて改革を着実に進めるというより、文科省の意向を探り、それに沿って上乗せ予算を確保しようとする動きが広がった。⇒ **申請書作成に謀殺**

学部名や学科名⇔「出口予測効果」

(日本高等教育評価機構で私立大学の認証評価に携わった経験から)

学生が集まりにくく定員割れを起こし始めた学部や学科

- ①時代の需要を背景にして設置された
- ②何を学ぶか・出口は何かが受験生に推測できない
- ③ 需要が少ない特殊専門
- ④出口が見えても就職後の経済的処遇・雇用条件が劣悪(3K)に見える保育士や介護福祉士の人気が落ちている。

「学士課程教育の構築に向けて」 (中教審、2008年)

★「学士課程教育の構築が日本の将来にとって喫緊の課題 「グローバルな知識基盤社会、学習社会において、我が国の学士課程教育は、未来の社会を支え、より良いものとする「21世紀型市民」を幅広く育成するという公共的な使命を果たし、社会からの信頼に応えていく必要がある。」

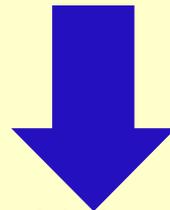
⇒学部4年間で基礎・専門知識のほか課題解決力、構想力、社会的責任能力など「**社会で生き抜く力をつける**」ことを目標に学士課程教育を見直す必要がある。

今多くの私大に求められる教育

ステークホルダーは「学生」・「保護者」・「一般社会」

- ・「未来を予測できない時代において『**解のない問題を解のある方向へ導いていく力**(**拡散的思考力⇒収束的思考力ではない**)』 & 『**社会を生き抜く力**』を身につけた人材養成の拠点になること。」

〔山田礼子,2012;2016;水戸英則,2015;生和秀敏,2016〕



※自ら学ばない学生に**主体的に学ぶ環境作り**や**動機づけ**が必要である。『**何を学ぶか**』⇒『**どのように学ぶか**』へ

「アクティブ・ラーニング」 * の可能性を探る

*主体的で能動的・対話型の深い学び(中教審,2016.8.25.) ¹⁰

私大で学士教育課程の質を担保するには？

- ① 学生人口の減少に直面している⇒定員確保の適正規模
- ② 専攻分野別及び設置形態による学生のプロフィールを十分把握できているか？
- ③ 学生数の多い大規模授業が多い⇒**座学中心になりがち**
- ④ 基礎学力不足の学生に教育の質を担保するには？
- ⑤ 教養科目と専門科目の住み分けと連携協働を諮れる？
- ⑥ キャリア教育へは初学年から取り組むべき
※女子大特有：資格が取れること+貧困問題；2年で資格がとれるなら
- ⑦ **ダイバーシティ推進**
障がい学生(発達障がい・視聴覚障がい)への合理的配慮
- ⑧ 学部生に**グローバルなキャリア形成のオプションとノウハウ**を提供できるか

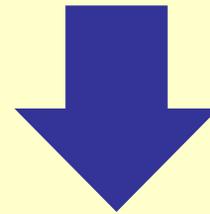
「建学の精神に立ち返れ！」

十文字学園女子大学は学びたいと願う女性、学ぶ意欲のある女性の誰でも学べる大学として設置された。少人数であっても丁寧に教育して達成感をもって中堅職業人として社会に送り出してきた実績がある。

- ①今のままでは**定員割れ**は続く⇒私学を取り巻く情勢分析とあわせて改革の是非の検証が必要になる。
- ②**学科名称と教育内容の再検討**が必要である。
- ③新座に大学院の設置構想の是非⇒私立女子大の大学院は**リカレント教育**の拠点。名称も選考内容も要検討；「子ども発達学科」とか「発達教育学科」など。*c.f.* **研究大学院大学と差別化すべき**。
- ④本学の建学の精神に立ち返り、**丁寧な教育、一人ひとりを大事に育て社会に送り出すという姿勢**を大切に。

教員の連携協働で未来が拓ける

学部4年間で基礎・専門知識のほか課題解決力、構想力、社会的責任能力など社会で「生き抜く力をつける」ことを目標に学士課程教育を見直すことが喫緊の課題。



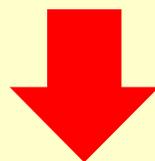
十文字学園女子大学の**入学層**を見極める

- ・埼玉からの入学者(**自宅通学者**)が8割を占める
- ・競合校・**資格取得**・出口(キャリア教育)が鍵

学士課程教育の質保証が喫緊の課題

教職員の大学への期待や展望を反映させよう！ **十文字「ビジョン2030」の策定へ**

学長のリーダーシップのもと「大規模化」改組が進められた。
⇒教員の中にはこの大学には希望がもてないと他大学へ転出するものが出てきた。



法人本部 教職員に対するアンケート調査を実施
創立100周年に向けて「十文字ビジョン2030」の策定へ
教職員が心一つに改革に取り組む機運が高まった！
(新学長の体制のもとで第三次教育改革に取り組んでいる)

【教育実験1】「鉄は熱いうちに打て！」 初年次前期の総合科目「女性のからだところろ」

1. **教育目標**：【**縦軸**】女性のからだところろについて、生涯発達の視点から最新の研究成果に基づいて考察する。生涯に直面するリスクにどう対処するかを考える。
【**横軸**】作文教育：10分間に振り返りの論評作文をまとめる。
2. **予習**：テキストの該当章を読み、2問の回答を作成して受講する。
3. **作文教育**：A4版作文用紙1枚に10分間の**論評作文**をまとめる
毎回講評：S評価を得たモデル作文を4点紹介
4. **対話セッション**：20分
授業者との対話・質疑応答・討論セッション
5. **シンポジウム**：(学生・授業者全員参加)
話題提供者は学生〔14回 前半6講義・15回 後半6講義〕
6. **評価**：①毎回の作文・②テストレポート・③討論時の参加度

【教育実験2】「十文字ブランド」を高める試み 「十文字オープンアカデミー」の公開講座

第1条 この規程は、学校法人十文字学園（以下「本学園」という。）が設置する**十文字オープンアカデミー**（以下「JOA」という。）に関して必要な事項を定める。

（目的）

第2条 JOAは、公開講座や講演会等の実施を通じて、本学園の持つ知財を最大限に活用し、専門的、総合的な教育・研究機能を開放することにより、**社会貢献活動として、生活上、職業上の知識、技術及び一般的教養を身に付けるための学習の機会を広く社会人等に対して提供する事**を目的とする。

（業務）

第3条 JOAは、次の各号に掲げる業務を行う

- 一 公開講座や講演会の開催
- 二 本学園の建学理念や歴史資料の編纂
- 三 前各号に付随する情報発信やイベント等の実施
- 四 その他目的に合致する事項 <以下略>

JOA 十文字オープンアカデミー 2017

保育講座
「学習指導要領、保育所保育指針の改訂に対応するワークショップ」

- 日時： 9月30日、10月7日、10月14日、10月21日、10月28日 の全5回
- 会場： 十文字中学・高等学校 新館5階（地図 裏面参照）
豊島区北大塚1-10-33（JR 巣鴨、大塚 徒歩8分）
- 申し込み： 裏面の申込書に記入・送付してください。
- 参加費： 1回 1000円・当日支払い（どなたでも参加いただけます）

第1回 9月30日(土) 13:30~15:30

明日の保育を考えるー学習指導要領、保育所保育指針の改訂

講師 無藤 隆 氏(白梅学園大学教授、中央教育審議会委員)



講師 内田 伸子(十文字学園女子大学特任教授)

第2回 10月7日(土) 13:30~15:30

子ども中心の保育における保育者の
援助やことばかけ

講師 内田 伸子
(十文字学園女子大学特任教授)



第3回 10月14日(土) 13:30~15:30

今、世界の幼児教育は
遊びを中心とした学びの大切さ

講師 上垣内 伸子
(十文字学園女子大学幼児教育学科教授)



第4回 10月21日(土) 13:30~15:30

音楽リズムワークショップ
リズム遊びの楽しさを共有する

講師 金勝 裕子
(十文字学園女子大学幼児教育学科教授)



第5回 10月28日(土) 13:30~15:30

いざこざワークショップ
気になる子供にどう向き合うか

講師 加藤 則子
(十文字学園女子大学幼児教育学科教授)



参考文献

1. JIHEE座談会〔相良憲昭・佐藤東洋士・瀧澤博三・福井直敬・内田伸子〕(2015)「認証評価とJIHEEの10年後のために」
2. 水戸英則 (2015)『今、なぜ「大学改革」か？—私立大学の戦略的経営の必要性—』二松學舎ブックス、丸善.
3. 水戸英則(2014)「私立大学の戦略的経営を考える」(公益)日本高等教育評価機構創立10周年記念シンポジウム.
4. 山田礼子 (2012)『学士課程教育の質保証へむけて—学生調査と初年次教育からみえてきたもの』東信堂.
5. 山田礼子〔編著〕(2016)『高等教育の質とその評価—日本と世界』東信堂.
6. 生和秀敏 編著 (2016)『大学評価の体系化』東信堂.
7. 早田幸政・工藤潤〔編著〕(2017)『内部質保証システムと認証評価の新段階』エイデル研究所.